

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2005年12月1日発行 第27号



レダ基地に咲くジャカランダ



チバトの花の蜜を求め、ハチドリ

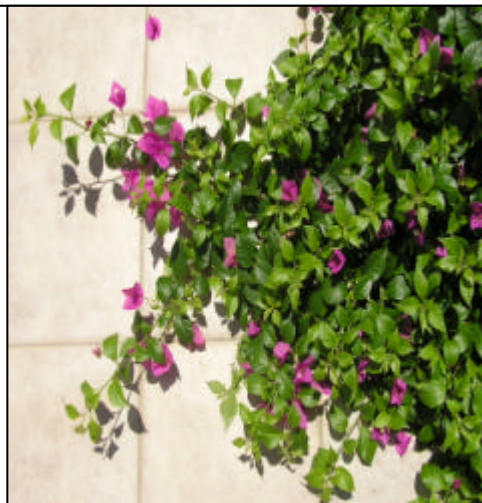
レダは早くも雨季が到来したかのようです。人工的な水遣りには全く反応しなかった木々さえも、一斉に若葉を噴出していきます。公館の西の庭では、森川先生のチバトが他に先駆けてまもなく満開になろうとしています。チバトの花の赤は、何よりも純粋な赤。他の木々もつぼみをふくらませています。



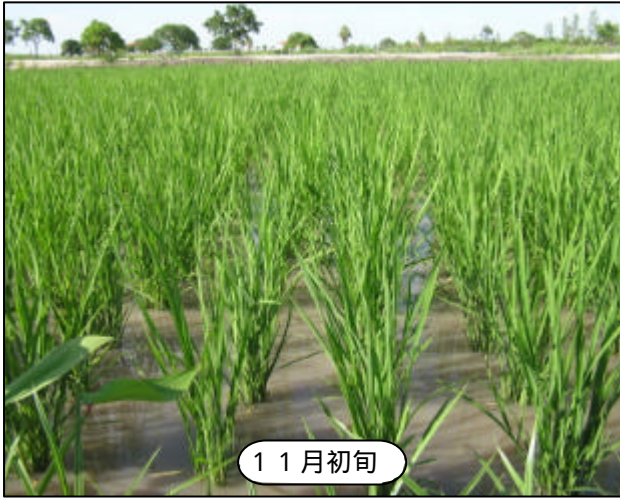
レダ基地周辺は春、花が咲き、皆様の訪問を待っています。レダの最近の様子を現地の小田さんから報告が来ています。



セミナーハウス（修練所）から大食堂にかけて、中庭があります。この花園は、公館の花壇と並んで、蝶たちの天国です。



ブーゲンビリアも猛烈な勢いで伸びています。大食堂からプールに渡る廊下のタイルは、絵のようです。



11月初旬



田植えする高橋君（10月）

十月に植えた稲です。力強い陽光と豊富な水を受けて、縦にも横にもぐんぐん成長しています。



大きなマンゴーの実が今年も色づき始めました。楽しみにしているのは、私たちだけではないようです。



ここは、レダ基地から第2の小リアチョです。遡るとエスペランサに至る、長い天然の水路です。誰が何時来ても、何か珍しい生き物に出会うことができます。双眼鏡やカメラもお忘れなく！

パラグアイ大統領来日記念にパンタナールの自然写真展を開催

10月31日京都、11月1日東京



2005.10.30

PANTANAL の自然

ここに展示された写真はマイケル大塚氏(プロカメラマン)と飯野貞夫氏(南北米福地開発協会)が世界の秘境 パンタナールのパラグアイ側、レダ地域の自然を6年がかりで撮影した作品の中から選んで出品しました。
ご来場者の皆様に少しでもお楽しみ頂ければ幸いです。

2005.10.30



2005.11.01



2005.10.30



2005.10.25

事務所の柴沼さんを交え、高橋芳平、吉本邦男、後藤誠一の四人で、栃木県の高校を十月二十五日、訪問しましたので、簡単な報告をさせていただきます。

県立高校の中で唯一「淡水魚」の養殖取り組んでいる学校です。水産試験所も果たせなかったマナマズ(日本産)の完全養殖に、日本で初めて成功したところです。

ナマズの養殖への取り組みは、一九七八年から始めました。一九八一年には親魚からの採卵に成功。しかし、孵化直後から稚魚による共食いが始まり、この問題との格闘は、十二年間に及びました。一九九三年に共食い防止策を発見。以後、完全養殖をはたしています。自然界では当然のようになされている産卵も、養殖では簡単でないことを知りました。ナマズ一筋の先生は、まさに「なまず博士」と言ったところで、全国から先生のところへは問い合わせ、指導の要請が多々あるそうです。

この高校では、他に南米産のペヘレイ(キスに似ている)やチヨウザメ、ウグイ、アユ等の養殖もやっています。今後も養殖の研究を進め、レダでの養殖を進める際、貢献できればと今後も継続的に研究を続けていきます。関心のある方は積極的にプロジェクトに参加ください。

水産プロジェクト
後藤誠一

南北米福地開発協会 事務局
〒二二三 〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区 溝口三十一 十五
岩崎ビル 四階
電話 〇(四四)八一九 二八二二
ファックス 八一九 二八二〇

地球環境を保護し、絶滅の危機に瀕している希少生物保護を目的とする当協会への会員を募集しています。

会費は月五〇〇円で、会員の方には毎月、パンタナール通信を送ります。